

巻頭言：これからも一緒に ～協働をますます進めて～	1
特集：神図協 この1年の動き	
研修委員会 地域資料委員会 大学図書館協力委員会 広報委員会	2
新規加盟館の紹介 湘南鎌倉医療大学図書館 事務局からの報告	3
連載：わたしのイチオシ 関東学院大学図書館本館 『福音紙芝居』	4

## これからも一緒に ～協働をますます進めて～

神奈川県図書館協会 副会長 (横浜市中心図書館)

田雑 由紀乃

令和元年より副会長を務めております、横浜市中心図書館長の田雑由紀乃です。

さて、令和2年といえば、ずっと時を経ても「ああ、あの新型コロナウイルス感染症の年」として記憶される衝撃の1年でした。感染拡大に伴って各館でのサービス縮小やイベントの中止、果ては緊急事態宣言が出されると休館まで余儀なくされて、その対応に追われた印象が強く残りました。また、順次サービスを再開していくにも、手探りの状態で、工夫を凝らしながらも恐るおそる、のことも多くありました。

神図協でも、集合研修の中止や人材育成のための派遣の取りやめ、また、総会の書面による開催等、これまでにない経験が続きました。ただ、これからは、感染症のような「急激な事象」だけでなく、「ゆっくりと着実に進行する様々な変化」にも対応していく必要が増していくことは確実です。例えば、電子書籍などオンラインによる提供をはじめとする非来館型サービスの質の拡充、それと同時に、ICTの活用環境にない方には、身近で便利な図書館サービスのいっそうの推進などが容易に想定されます。利用者の方やボランティア、学校や様々な団体との

協働も進めていかなければなりませんし、それを通じて、図書館事業に携わる者としての面白さや醍醐味も増していくわけです。神図協には公共図書館とともに、大学図書館など、異なる事情やニーズを抱える構成員がいることが強みとなります。知恵を出し合い、時代に流されるのではなく、しっかりと時代の要請にこたえていくためにも、司書をはじめとする図書館員の意識や能力の向上を大切に、これからも、一緒に活動してまいります。

さて、令和3年6月に横浜市立図書館は、開業100周年を迎えます。先人たちが築きあげてきたこれまでの蓄積を活かし、次代にバトンを渡していく節目の年として、様々な事業を展開してまいります。

令和3年度が、平穏かつ活力と工夫にあふれたよい1年となるよう、皆様と一緒に歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 研修委員会

令和2年度については、2月27日の研修委員会から始まりました。令和元年度に開催した研修内容の振り返りを行い、6月以降の研修内容及び時期について検討しました。この時点でも新型コロナウイルスの感染が広がりつつあり、4月の委員会の開催が難しいかもしれないので、できるだけ内容を決めておこうと話し合いました。

ところが、3月に入り、県内各館でサービス縮小や休館対応が行われ、4月7日には緊急事態宣言が発令されました。皆様も対応に追われたことと思います。5月25日の解除後も8月31日までには委員会開催を原則控えることとされていましたし、各館でも、段階を追ったサービス再開や夏休み対応に追われていたこともあり、委員会活動を再開したのは9月でした。後期の研修会開催について、加盟各館にアンケートを実施した結果に基づき、集合型は子ども読書フォーラムのみとし、資料掲載型か配信型で実施しました。配信の手法や動作環境を調べ、右往左往しましたが、結局断念し、年度末に資料掲載型で実施しました。想定外の事態とはいえ、年間を通して、ほぼ研修のない事態となりましたこと、お詫び申し上げます。

[委員長 厚木市立中央図書館 葉山 清美]

## 大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、令和2年度はコロナ禍の影響から、各大学のコロナ対策について意見交換を行いました。概要は以下のとおりです。

第1回	閲覧席の予約管理について/開館・サービス拡大の方向性について/実施中の感染防止対策 など	8/6
第2回	カビの発生について/他部署との連携について/入館（学内者・学外者）制限について/電子ブックの導入についてなど	10/26
第3回	学外者向けサービス再開について/郵送貸出サービスの課題について/着払いでの返却に関する課題について/次年度の開館時間について	2/19

会議はZoomで実施しました。各館の事情を共有しながら、有意義な意見交換を行うことができたと考えています。意見交換の内容は、大学図書館協力委員会ページのキャビネットで公開しています。会員館のみなさんにおかれましても、ぜひご参考にいただければと思います。

[委員長 横浜市立大学 学術情報センター

河西 徹] 2

## 地域資料委員会

地域資料委員会では、地域資料の利活用促進や会員のスキル向上目的に国立国会図書館レファレンス協同データベース事業の利活用研修を当初6月開催ということで準備を進めました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から時期を延期、再検討、最終的には集合開催は断念することとなりました。それでも何とか開催できないかという担当委員の粘り強い調整により、資料掲載型で研修委員会・地域資料委員会共同事業「レファレンス協同データベースの利活用研修会」を実施できる運びとなりました。内容は、国会図書館による職員遠隔研修「レファレンス協同データベースの利活用」の視聴と、利活用について県内からいただいた4件の事例報告を神奈川県図書館協会のホームページで閲覧いただく形で実施しました。会員の皆様のお役に立てば幸いです。

また、各館の特色ある地域資料・コレクションの一覧作成を目的にミニ調査の実施も検討していましたが、実現には至りませんでした。コロナ禍にあつて図書館を取巻く状況も変化しており、協会における委員会活動の在り様も再考していく必要があると感じています。

[委員長 横浜市中央図書館 稲葉 伊岐子]

## 広報委員会

2020年は、皆様の館でも新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策に苦慮されたことと存じます。そうした中、専修大学文学部の野口武悟教授の特別寄稿（協会報273号）「非来館サービスを一部の人がすべての人へ」の、誰もが「来館しての利用が難しい人」になる事態を想定し、地域資源や人材等との連携を模索しながら来館サービスと非来館サービスのハイブリッド型の図書館サービスを提供するというご指摘は、今日の図書館運営に向けた多くの示唆に富むもので、今後、図書館サービスのユニバーサル化を目指して取り組んでいく思いを強くしたものです。

改めまして、協会報の原稿執筆にご協力いただいた皆様に感謝とお礼を申し上げます。

[委員長 小田原市立中央図書館 古矢 智子]

## 新規加盟館の紹介 湘南鎌倉医療大学図書館

湘南鎌倉医療大学は徳洲会グループの「生命だけは平等だ」という理念のもと、2020年4月に鎌倉市に看護学部看護学科の単科大学として開学いたしました。当館は看護の専門領域を中心とした図書および雑誌等を約6,000冊（令和3年度までに11,000冊）揃える小規模な図書館です。湘南モノレールの富士見町駅から徒歩6分の場所にあり、静かで落ち着いた環境にあります。窓からは緑豊かな小道がのぞく閲覧席のほか、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）が行えるスペースを確保しており、多目的に使用できる空間となっております。



自然豊かで歴史ある鎌倉市に位置し、カリキュラムにも「鎌倉の文化と歴史」を取り入れており、鎌倉の文化や歴史関連の図書も多数あります。災害看護や島嶼看護を学べる大学としての特色を生かせるよう、今後も蔵書数を増やしていく計画です。現在、新型コロナウイルス感染症対策として学外者の方のご利用はお控え頂いておりますが、感染症の様子をみて大学近隣にお住いの18歳以上の方のご利用も検討しており、地域貢献の観点から今後地域の方々とのふれあいも大切にしていきたいと考えております。

### 事務局からの報告

#### 令和3年度総会及び役職員と委員の改選、令和2年度一般会計予算の使途について

##### 【令和3年度総会】

当協会の総会は例年4月に開催していますが、現時点で状況を判断することが困難であるため、企画委員会で検討し、令和3年度総会は書面開催とし、講演会と表彰式は実施しないことといたしました。書面開催の日程等につきましては、あらためて御連絡いたします。

##### 【改選】

令和3年度に役職員と委員の改選を実施します。新役職員と新委員は、新年度の総会で決定しますが、平成27年度総会にて審議し決定した「役職員ならびに委員会委員長・委員の選出について」を元に準備を進めます。

互いに意見を出し合い、よりよい図書館のあり方を協議するという協会の目的のもと、ぜひ積極的に活動に御参加ください。

##### 【一般会計 館員等研修費の使途】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、8月末まで研修等のイベントを中止したため、館員等研修費が予定通り執行できませんでした。そこで、予算の使途として、研修等に使用するウイルス対策用品とイベント等のオンライン化に対応するためのデジタル機器を購入し、会員の研修や会員館への貸出に用いることを事務局から提案し、企画委員会で審議しました。その結果、次の物品を購入することになりました。令和3年度から、利用を開始できるよう準備をすすめております。

##### <研修・イベント用購入物品>

- ・飛沫防止パネル
- ・WEBカメラ
- ・WEBカメラ用三脚
- ・microSDXCカード

## 『福音紙芝居』

今回の「わたしのイチオシ」は、本学の貴重書所蔵資料の中から、キリスト教の伝道のために作成された『福音紙芝居』をご紹介します。

作者の今井よね（1897-1968）は、1918年に洗礼を受けたクリスチャンで、1927年に渡米。帰国後の1932年頃より『福音紙芝居』を作成します。日曜学校で実演し、その効果を確認した今井は、子供向けの伝道に用いました。

今井が帰国した1930年代は、街頭紙芝居の流行期でした。子供たちを魅了する紙芝居の特性に注目し、これをメディアとして利用しようとする動きが、教育界や宗教界で沸き起こりました。そうした世相を反映して、これらの作品が作成されたのです。

本学図書館では、このうち24作品を所蔵しています。ここでは、聖書の「使徒行伝」の一部から「ダマスコ途上のパウロ」（「目からうろこ」という言い回しは、この物語が由来です）を取り上げます。脚本は今井が手掛けています。ストーリーは、聖書の内容を忠実に辿ろうとしているので、展開は断続的でドラマとしての盛り上がりは少ない一方で、文章は全体的に歯切れのよい端正な語

り口で書かれています。これに比して、作画を担当した紙芝居絵師である板倉康雄の画は、迫力に富んでいます。変化のある場面構成が街頭紙芝居的で、いわゆるアップ・ロング・俯瞰など、当時の最新文化であった映画手法を模倣していたので、子供たちを一層魅了したと思われます。

街頭からはほとんど姿を消しましたが、紙芝居は、今でも幼児教育の教材として活用されています。『福音紙芝居』は、今井よねによって、その活用の世界を広げたものといえます。

○参考・参照文献（刊行順）

- ・上地ちづ子「今井よねと福音紙芝居」  
児童文学研究 No. 20 1988
- ・鬢櫛久美子, 種市淳子「保育のなかの紙芝居—関屋友彦の福音紙芝居活動を通じて—」  
名古屋柳城短期大学研究紀要 第29号 2007
- ・鈴木常勝「今井よねと福音紙芝居—種播く人の「挫折と屈服」」  
国文学：解釈と鑑賞 76(10) 2011
- ・立石文恵「「福音紙芝居」子どもの伝道に活用」  
Library Talk（関東学院大学図書館報）  
No. 38 2013

[関東学院大学図書館 逸見 義頭]

